

新築編

浸水に備えた住まいづくり



はじめに



令和3年九州北部豪雨で浸水した家屋(撮影:武雄市)

佐賀県では、近年豪雨災害が頻発しており、

その度に多くの住宅が浸水被害を受けています。

家を建てる際に、浸水に備えた対策を取り入れることで、
被害を少しでも軽減でき、復旧が比較的容易になる場合があります。

ここでは、浸水の程度に応じた対策事例をまとめているので、

家づくりの参考にしてください。

住宅の浸水被害にあわないためには、まずは、
浸水する可能性があるだけ少ない土地を選ぶことが大切です。

ハザードマップで浸水想定を確認してください。



目次

- 1 建設地の浸水想定深さを知る P1
- 2 浸水に有効な対策 P3
- 3 建てた後でもできる対策 P15
- 4 役立つ情報 P16

対象とする住宅

- 新築の戸建住宅としています。(既存の住宅に使える対策もあります。)
- 地下階のある住宅には対応していません。

対象とする災害

- 洪水、内水氾濫*を対象としています。
- 住宅に強い力が加わる津波や土砂災害、洪水のうち家屋の流出や倒壊をもたらすような氾濫流を伴うものは対象としていません。

*内水氾濫：雨水が排水施設で川に排水できずに、宅地などにあふれること